

CP-S81/S82、を使っの遣り方(水盛り、矩振り)の作業例

CP-S81/S82 の大きな特徴(本体直近で 90° の矩が出せる)を使った
正確で効率的な新しい矩振り作業の一例です。

また、上部のクロスラインや 1m 位離れた位置での、
たちラインは太陽の直射を避ければ、昼間でも目視出来ます。

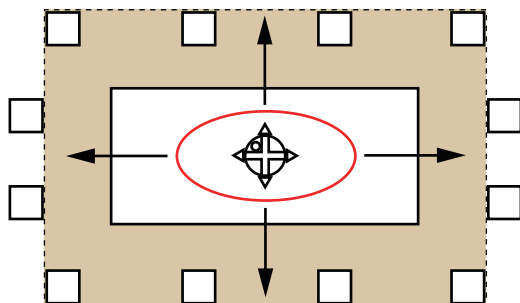


図1

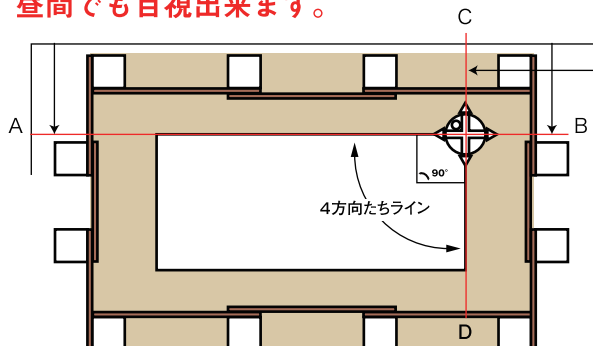


図2



写真1

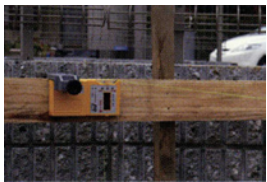


写真2



写真3



写真4



写真5

● 始業準備

シフティングのセンターマークの位置に本体をセットしておきます、
回転微調整機構も、左右回転位置のセンターにしておきます。たちライン、水平ラインの精度点検をしておきます。
円形気泡管などを使い短脚をできるだけ水平に設置します。

① 設計図の建物配置図にしたがって、縄張りの外側に水杭を打ちます。

② 専用短脚(S-68)を縄張りのほぼ中央に設置します、水平レーザーラインの出射高さは短脚取付け面から
17~19cmです。必要な高さにセットして CP-S81 または CP-S82(以降、本体と呼称)を取付けます。(図面1)

③ 水平(H)レーザーのみを点灯させ、受光器(UK-1)を使用し(写真1)全ての水杭に水平ラインをマーキングし
貫き板を張ります。

④ 建物配置図により貫き板の3箇所(A、B、C)にマークし A~B と、C~D(Dの位置はおおよその位置)に水糸を
張ります。(図2)Cの位置を A~Bの水糸にも付けられれば、鉛筆の芯などで付けます。

⑤ 貫き板のAの位置に受光器をセットします。(写真2)

⑥ 水糸のクロス位置の真下に短脚を水平にセットして本体を取付けます。(写真3)(図2)

⑦ 本体と短脚の締め付けを少し緩め、垂直(V)レーザーを点灯します。

⑧ (写真4)の様にコピー用紙などに十字を書いた紙をかざし、本体をスライドさせて水糸のクロスラインとレーザーの
クロスラインを合わせます。

⑨ 本体を締め付けて固定し、クロスラインの重なりを確認した上でA位置に固定している受光器の電源を入れます。
本体の回転機構と回転微調整機構を使って受光器の緑インジケータを点灯させます。

⑩ A位置の受光器を取外しDの位置に移動します。緑色が点灯する位置を探してマーキングします。(写真5)

⑪ C~Dのおおよそに張った水糸の位置を修正します。

⑫ B点、C点のレーザーラインは目視して確認します。

⑬ 以上で水盛りと矩振り作業は終わりです。

● 終業収納準備

水平の取れたような場所で電源を入れ、本体の可動部を水平にしてから電源を切ります。

※新しい方法ともいえる矩振り方法を簡条書きにしました。上部のクロスラインや 1m 位離れた位置での、
たちラインは太陽の直射を避ければ、昼間でも目視出来ます。(明るいまま受光器も使用出来ます)
本体の上側直近でクロスラインを描けるのはレーザー墨出し器ではリズムの CP シリーズだけです。(当社調べ)